

日本工作機械工業会 創立60周年



インタビュー

創立60周年を迎えた日本工作機械工業会の横山元彦会長(ジェイテクト会長)に、業界を取り巻く環境変化や新興国との競争と協調のあり方などを聞いた。

(名古屋編集委員・山中久仁昭)

横山 元彦 会長

日本の工作機械受注は過去10年間に大きな山と谷を経験しました。ITバブル崩壊と米国との同時多発テロに伴う不況に見舞われたが、2003年から急回復し、04年から5年連続で受注額は1兆円を突破。07年には過去最高の1兆5900億円を記録した。しかし08年のリーマン・ショックの影響で09年は、ピーク時の4分の1になりました。

「日本の生きる道はたゆま

日本は82年から27年間、工作機械生産額で世界一でした。その後中国に追い抜かれました。

「日本は生きる道はたゆま」

生きる道は技術開発

世界の約65%にまでなった。加えて為替水準が様変わりした。欧洲の債務問題を引き金としており、業界の輸出採算は極めて厳しい。

「日本は生きる道はたゆま」

日本は82年から27年間、工作機械生産額で世界一でした。その後中国に追い抜かれました。

「日本は生きる道はたゆま」



工作機械の世界三大見本市の一つとして注目される日工公など主催の日本工作機械見本市(JIMTOF)

日本工作機械工業会が12月1日、創立60周年を迎える。第一次世界大戦後の復興で、欧米製機械の修理・販売などから出発し、技術を磨いた企業が少なくない。工作機械は機械をつくるための機械であり、あらゆる製造業の基本となる設備だ。そして先進国に追い越せとの思いは、顧客もメーカーも大学、研究所の関係者も同じだった。工作機械業界は27年連続の生産額世界一を経て、技術力の鍛錬といった質的進化に向けて新たな一步を踏み出した。

質的な進化に向け新たな一步

日本の工作機械のエボリューションは何といつてもN/C(数値制御)化だ。1950年代に各社はN/C関連の技術・製品開発を競った。N/C化が工作機械は日本を代表する「輸出財」と本を格段に向上させた。その結果、N/C化が工作機械の機能、性能などの商品に寄与することになる。米マサチューセッツ工科大学がN/C技術を開発した5年後(1956年)、富士通(当時の担当部門は現ファナック)がN/C旋盤「ANC-25」がNC旋盤「ANC-25」がNC化以前の工作機械は手動(マニュアル)式旋盤で、高度な加工には熟練技が必要とした。N/C化で誕生したN/C旋盤や、複数種の加工に対応するマシンセンター(MC)はブ

リード位置方式のN/C-O/Sで、伸長している

まさに激減した。その後の回復では、従来割合がだつた外需比率が約7割にまで伸びている

「世界経済の中心が、從来の欧米から中国を中心とする新興国へと移り変わった。中國の工作機械生産額は約10年で10倍になった。この結果、日本と中国、韓国、台湾などアジアの工作機械生産額は世

界の約65%にまでなった。加えて為替水準が様変わりした。欧洲の債務問題を引き金としており、業界の輸出採算は極めて厳しい。

日本は82年から27年間、工作機械生産額で世界一でした。その後中国に追い抜かれました。

「日本は生きる道はたゆま」

日本は82年から27年間、工作機械生産額で世界一でした。その後中国に追い抜かれました。

「日本は生きる道はたゆま」